

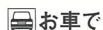
交通アクセス



JRで
東京駅 — 一ノ関駅 — 気仙沼駅
東北新幹線 大船渡線
[約2時間30分] [快速で1時間15分]



都市間バスで
仙台駅前 — 気仙沼駅前
東北自動車道・国道284号
[約2時間50分]



お車で
川口JCT — 一関IC — 気仙沼
東北自動車道 国道284号
[約5時間] [約1時間10分]

仙台東IC — 登米東IC — 気仙沼
三陸自動車道 国道346号・国道45号
[約50分] [約1時間15分]



飛行機で
仙台空港IC — 登米東IC — 気仙沼
仙台東部道路 国道346号・国道45号
三陸自動車道 [約1時間10分]

仙台空港IC — 一関IC — 気仙沼
仙台東部道路・南部道路 国道284号
東北自動車道 [約1時間20分]

※H24年3月31日現在、下記の路線で運転を見合わせています。

JR気仙沼線<柳津駅~気仙沼駅>

JR大船渡線<気仙沼駅~盛岡>

三陸鉄道南リアス線<全線>

他にJR仙石線、JR石巻線、JR常磐線、JR山田線、JR岩泉線、三陸鉄道北リアス線などで運転を見合わせています。

お問い合わせ

気仙沼市産業部観光課 TEL.0226-22-6600

〒988-8501 宮城県気仙沼市八日町1-1-1

気仙沼市本吉総合支所産業課 TEL.0226-42-2600

〒988-0393 宮城県気仙沼市本吉町津谷舘岡10



徳仙丈山

とくせんじょうさん

ようこそ、日本最大級のつつじの名所へ



ビューポイント 4

徳仙丈山山頂からの眺望



気仙沼市観光キャラクター
海の子ホヤぼーや

宮城県気仙沼市

散歩気分で山歩きを楽しもう！

徳仙丈山の魅力

標高711mの徳仙丈山の最大の魅力は、5月中旬から咲き誇るツツジの大群落を散歩気分で満喫できることです。数々の山野草が咲き、野鳥の宝庫でもある野山から「ウグイス」のさえずりが聞こえます。

初夏、蛙の鳴き声に似た「エゾハルゼミ」の大合唱が響き、トンボたちが飛び交い、山々が深緑に変わる頃には夏山トレッキングを楽しむ人々が訪れ、爽やかな空気と山頂からの絶景を楽しむことができます。また、気仙沼側にある「徳仙奥入瀬」では、森の中を流れる清流のせせらぎを耳にしながら、森林浴気分で散策もできます。

秋には、山々の木々やツツジなどの紅葉も楽しめます。

豊かな自然の移り変わりを気軽に満喫できるのも徳仙丈山の魅力です。

ご来訪者のみなさまへ

※ツツジの見ごろを迎えた週末や休日は、車道や遊歩道などが混み合いますので、ご留意ください。

※軽登山になりますので、歩きやすいスニーカーや登山靴などでお出でください。

※登山道周辺には自動販売機がありません。水分補給用の飲料などを持参ください。

※トレッキングの装備（安全な服装、軽食、救急セットなど）で入山されることをおすすめします。

※トイレは大変混み合います。事前に「道の駅」などの利用をお願いします。

ツツジの見ごろ
毎年5月中旬から
6月上旬

※その年の天候などにより、開花日や花の咲き具合が異なります。あらかじめご了承ください。

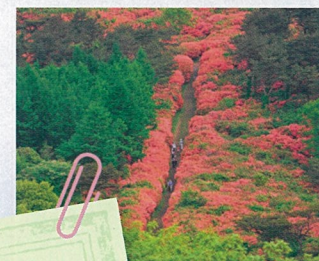
ツツジの花
面積 約50^{ヘクタール}
東京ドーム約10個分
本数 約50万本

徳仙丈山ひとくちメモ

ツツジの名所になったワケ

徳仙丈山には大正初期から昭和25年まで銅を採掘した「徳仙鉱山」があり、火入れや山火事跡は萱や牧草地として利用されていた。現在の登山道の一部は「火防線」として明治に造られたもの。その後幾度もの山火事や植林事業を経て、厳しい自然環境に耐え、山頂一帯が、「黒野牧（くろのぼく）」

という土がツツジの成長に適していたことから、自生のヤマツツジの大群落となったといわれている。昭和51年に気仙沼側の故・佐々木梅吉氏ら、同年に本吉側の故・須藤隆氏らにより撫育（ぶいく：愛情をこめて育てる）や保護事業が開始され、以後双方の住民による地道な活動によって、現在の徳仙丈山が日本屈指と呼ばれるまでのツツジの名所となったのです。



ビューポイント

2

第二展望台からの眺望

山全体がツツジに覆われる名山

徳仙丈山

とくせんじょうさん

圧倒的なスケール感で咲き誇るツツジは、日本屈指の名所となっています。ツツジの回廊をくぐり抜け、山頂から眺めを見渡せば、遠くリアス式海岸の美しい景観と、眼下の燃え立つようなツツジとのコントラストが織りなす風景を満喫できます。

ビューポイント 1

第一展望台からの眺望

深紅に染まる名山、心も体も軽やかに50万本ものツツジに魅了される

宮城県沿岸北部、気仙沼市の徳仙丈山は標高711m。日本屈指のツツジの名山で、5月中旬から6月上旬には50万本ものヤマツツジやレンゲツツジが全山を深紅に染め上げます。周囲の緑との対比も美しく、赤く染まった山頂は、遠く離れた平野部からも見えるほどです。

登山口は北と南の2カ所。北の気仙沼側登山口からまず、果てしなくツツジの赤が広がる「つつじが原」を見渡す第一展望台へ。さらに、第二展望台から眼下には、ツツジと太平洋の紺碧が織り成す雄大な風景が迫ってきます。その先は、人の背丈を越すほどのツツジを見上げながら、「つつじ街道」を通って山頂へ。

南の本吉側からの登山者は、まず登山口駐車場のそばに湧く清水「長命清水」でのどを潤し、二つのコースから道を選んで進みます。のんびり作業道コースは、広い作業道を利用したゆるやかな道。登山の雰囲気を楽しみたい人には、尾根道コースがお勧めです。両コースとも山を覆い尽くすツツジや太平洋の美しい展望を満喫しながら、歩くことができます。

気仙沼側、本吉側、どちらから登っても山頂までは40分ほど。山頂の手前に急なこう配がありますが、ゆっくりでいいので、ぜひとも頂まで挑戦してください。そこには360度ぐりと見渡せる絶景が待っています。視界を遮る高木がないため、天気の良い日は、東にリアス式海岸が続く太平洋、大島、南に金華山、北東に五葉山、西に栗駒山、北に室根山、大森山を一望。また、自然保護を願い、登山者の労をねぎらおうと、樹齢1,000年以上のツツジを御神体とする石造りの徳仙丈山神社も建立されています。

昔、屋根葺きや農耕馬用の採草地だったことから、山焼きが行われ、その火防線は現在の登山道の一部となっています。山焼きや伐採など、多くの試練を耐え抜いたツツジ。その成長の陰には、本吉側の「徳仙丈山つつじ保存会」、気仙沼側の「徳仙丈の自然とつつじを守る会」とその意思を継いだ「徳仙丈のつつじを愛する会」の長年にわたる保護活動の尽力がありました。

気仙沼側には清らかなせせらぎの「徳仙奥入瀬」があり、大きな岩を抱いた「岩抱きけやき」をはじめ美しい風景が点在しています。徳仙丈山は毎年開花時期にはつつじまつりが開催され、ツツジを愛する地元の人々や観光客で大いににぎわいます。



ビューポイント 3

気仙沼側からのつつじ街道



ビューポイント 5

尾根道コースから見た山頂



ビューポイント 6

のんびり作業道コース

つつじの王者

本吉側からの徳仙丈山全景